

令和元年 6 月 7 日（金曜日）



## 【足立敏之参院議員】令和時代のインフラ整備計画見直しを

足立敏之参院議員は6日の参院国土交通委員会で質問に立ち、日本のインフラ整備を国際的にも恥ずかしくない水準としていくために公共投資を行う必要があるとしながら、「令和の時代を迎える中で、インフラ整備に関する計画を見直す必要がある」と述べ、国土交通省の見解を求めた。

足立議員は「道路では日本の高速道路の完成形を示し、鉄道もリニア新幹線や在来型の新幹線を含めて、どこまでネットワークとして整備するのかを明らかにする。治水対策でも温暖化に対してどこまで備えるのかを、しっかりと示す必要がある」と指摘。

昭和から平成にかけて進めてきたインフラ整備について、あらためて評価を行った上で「今後どの程度の水準まで個々のインフラの整備を行うのか、そのための投資はどの程度必要なのか、明らかにする必要はある」と強調した。

石井啓一大臣は「インフラ整備には長期的な視点が必要であるが、それとともに人口動態、財政状況、ライフスタイル、気候変動、技術革新などインフラを取り巻く状況は今後とも変化し、これを踏まえた取り組みが求められる」としながら、国民の安全・安心の確保や活力ある経済社会の構築が図られるよう「インフラの整備に関わる計画について今後とも必要な見直しを行い、その時点において必要なインフラ整備をしっかりと進めてまいりたい」と答弁した。

足立議員は最後に「日本の未来に向けて、どのレベルまでインフラ整備を行うのか、しっかりと描き直す必要がある」との考えを重ねて示し、今後の検討を求めた。



インフラ整備水準の描き直しが必要と訴える足立議員